

『門司海青小学校 平成27年度教育実践の足跡』がCD-Rという形で発刊されることとなりました。

平成26年7月に、北九州市内で唯一タブレット型パソコンが40台配備されて以来、それまでの電子黒板や書画カメラを活用した授業実践に加えて、タブレット型パソコンの活用方法を探る研究を推進してきました。

情報機器を活用する実践でありながら、機器に振り回されることなく、教育技術として大切にしなければならない部分を押さえ、授業を構成する一部分として、機器の持つ優れた部分を見いだそうとしているところが、本校の研究実践の強みであると思っています。それは、礼儀正しく落ち着いていて、学習に集中して取り組む子どもたちの姿に、子どもたちがノートに考えや感想を記述する内容の多さに、とてもよく表れているのではないのでしょうか。

また、日々の教育実践の中で、子どもたちが意欲的に学習に取り組む姿が見られるのは、どの場面でICT（電子黒板・書画カメラ・タブレット型パソコン）を活用したときなのかを積極的に探求する姿に、公開授業にとらわれず授業実践を重ねていく先生方の姿に、子どもたちの成長のために傾ける、教師としての熱く力強い情熱を感じることができました。

この内容は、本校が平成27年度に取り組んできた教育活動の実践の様子が収められています。特に「主題研究」は、本校独自のICT（電子黒板・書画カメラ・タブレット型パソコン）を活用した授業実践の様子が記されています。昨年度の実践交流会を受けて、平成27年11月10日（火）に実践報告会を開催し、タブレット型パソコンの活用方法を北九州市内の学校を中心に情報発信するとともに、株式会社しくみデザイン代表取締役の中村俊介氏の講演から、これからのICT活用の方向性について知ることができました。

本研究をもとに作成した「平成27年度教育研究論文」では、団体部門で金賞をいただくことができました。これは、本校の研究内容が認められた結果でもあると思っています。これを大切な財産として、また、他校の参考となるように、今後とも全職員の共通理解を図り、研究を継続・深化させていきたいと思います。

さて、文部科学省では、「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」を本年度は3回にわたって開催しています。この結果はまだ示されていませんが、近い将来を見据えた方向性がいずれ示されるものと思われれます。

「平成28年度文部科学関係予算のポイント」によると、ICT活用による学びの環境の革新と情報活用能力の育成に前年と同額の予算を計上していることが分かります。

- ・ 児童生徒の確かな学力の育成を図るため、児童生徒の情報活用能力の実現状況の把握や教員のICT活用指導力の向上、ICT支援員の育成・確保を進める。
- ・ 過疎化・少子高齢化を見据え、ICTを活用して遠隔地間をつないだ学校教育及び社会教育に関する実証研究を実施する。
- ・ ICTを活用した授業実践を行う体制構築の支援を行う。
- ・ ICTを活用した教育推進自治体応援事業
- ・ ICT活用教育アドバイザーの自治体への派遣(15地域増)

などが示されています。

本校が日々の教育活動の中で取り組んでいることは、文部科学省が課題としてあげているところを解決していくための一助となるものです。

今年も、教育活動の中心である授業の中で、子どもに寄り添いながら、「誉めて」「認めて」「励ます」ことを基盤に据え、4つの「心の花」を咲かせようと、毎時間の授業を大切に積み重ねる姿を見てきました。今後も、近い将来に向けた方向性など、社会の要請に目を向けながら、ICTを活用し対話のある授業に、チーム力を高め組織体として動くようにしていきます。子どもたちのために、日々の教育活動に情熱を傾ける教職員の皆さんに、心から感謝しています。ありがとうございます。今後もその歩みを続けて参りましょう。

最後になりましたが、本教育実践の足跡の作成にご尽力いただいた、稲葉先生、池崎先生、宮田先生、吉竹先生には厚くお礼を申し上げます。